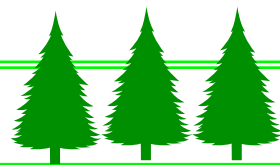




みつぎ便り



第239号 8月号 令和8年8月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



見次公園の昔

見次公園は、昭和二十八年四月に板橋区の公園として開園しました。私はその当時、四歳のとき公園のすぐそばに住み始めました。当時のわずかな資料（公文書館の写真）と私の記憶を元に見次公園の昔の情景について書いてみました。

開園当時の池は、現在の玉石積み
の周壁、湧水流入などの排水水門、
池周囲の簡単な安全柵などが整備さ
れ、魚釣り場およびボート遊び場と
して、ボートとその管理小屋が設け
られました。当時は池の中央の島も
なく、冬には池全体に氷が張ること
もあり、氷上への石投げ遊びをした
ものです。公園内の北側斜面には子
供が木登りできるほどの中太の樹木
が多く、それ以外は細い木がまばら
にあるだけで、遊び場広場もすべり



台、ブランコ、トイレ小屋の設置だ
けの見通しの良い自由広場という印
象でした。

当時の公園には様々ないきものが
生息していました。クチボソ、ダボ
ハゼ、ザリガニ、小エビ、ヒキガエ
ルなどの小物から鯉やライギョなど
の大口の魚も生息し、子供たちは四
手網、手網、竹竿釣りなど様々な方
法によって魚獲りを楽しみました。

また、セミ、トンボ、蝶など数多
くの種類の昆虫も生息し、今では見
られなくなったチョウトンボ、オニ
ヤンマ、ひぐらしゼミなどもおり、
夏休みには宿題の昆虫採集にもって
こいの場所でした。

遊び場広場は、ボート遊び、大縄
跳び、ゴムダン遊び、鬼ごっこなど



グループ遊びの子供達で賑わいまし
た。当時の子供達は、学校が終わる
と日暮れまで、友達と外で遊ぶのが
ふつうで、子供たちにとって見次公
園は自由に走り回れる遊び場として
貴重な公園でした。

現在、約七十数年の変遷を経て、
見次公園も大きく変わりました。樹
木なども大木に成長し、花壇や集会
所なども増設され、朝のラジオ体
操、魚釣り、ジョギング、ペット連
れの散歩、遠方からの散策など利用
目的も利用者層も多様化し、多くの
方々を楽しませる公園に変化しまし
た。見次公園と共に歩んできた現在
の私が、公園のボランティア活動に
参加させて頂いているのも深い縁を
感じる今日この頃です。

(昭)

